

連絡先：自動車局 審査・リコール課 リコール監理室
 TEL：03-5253-8111 内線42354
 アドレス： <http://www.mlit.go.jp>

リコール届出一覧表

リコール届出日：平成28年6月14日

リコール届出番号	3824	リコール開始日	平成28年6月15日
届出者の氏名又は名称	ヤマハ発動機株式会社 代表取締役社長 柳 弘之	問い合わせ先：お客様相談室 0120-090-819	
不具合の部位（部品名）	①原動機（オイルポンプ）②動力伝達装置（プレッシャープレート） ③制動装置（ブレーキホース）		
基準不適合状態にあると認める構造、装置又は性能の状況及びその原因	①原動機のオイルポンプのプランジャ（オイルポンプ内の圧力を調整する弁）において、設計が不適切なため、原動機が高回転時にオイルポンプ内の圧力調整ができないことがある。そのため、油圧が周期的に変動してオイルポンプを駆動させるギヤ（樹脂製）に過大な力が加わり、最悪の場合、当該ギヤが壊れ、エンジンが焼きつくおそれがある。 ②動力伝達装置において、クラッチプレッシャープレートのベアリングの強度が不足しているため、クラッチ操作を繰り返すと、当該ベアリングが破損することがある。そのため、クラッチが切れず変速ができなくなり、走行不能となるおそれがある。 ③前輪のブレーキにおいて、ブレーキホースがねじれて組みつけられたものがある。そのため、走行中に当該ホースがラジエタと接触して、最悪の場合、当該ホースが損傷してブレーキ液が漏れ、制動力が低下するおそれがある。		
改善措置の内容	①全車両、オイルポンプを対策品と交換するとともに、アイドルギヤを新品と交換する。 ②全車両、クラッチのプレッシャープレートを対策品と交換する。 ③全車両、前輪用制動装置のブレーキホースの取りまわしを点検して、適切な場合、当該ホースを固定するクランプを追加する。不適切な場合、当該ホースを新品と交換するとともに、固定するクランプを追加する。		
不具合件数	①10件 ②28件 ③3件	事故の有無	①なし ②なし ③なし
発見の動機	①②市場からの情報による。 ③社内からの情報による。		
自動車使用者及び自動車分解整備事業者に周知させるための措置	<ul style="list-style-type: none"> ・使用者：ダイレクトメールで通知する。 ・自動車分解整備事業者：日整連発行の機関誌に掲載する。 ・改善実施済車には、車わく（車台番号打刻位置付近）にNo. 3824のステッカーを貼付する。 		

車名	型式	通称名	リコール対象車の車台番号（シリアル番号）の範囲及び製作期間	リコール対象車の台数	備考
ヤマハ	EBL-RH07J	「YZF-R3A」	RH07J-001001～RH07J-003436 平成27年3月19日～平成28年5月19日	1,458台	①②
		「MT320」	RH07J-001641～RH07J-003400 平成27年8月31日～平成28年5月23日	780台	①②③
	JBK-RG10J	「YZF-R25」	RG10J-001001～RG10J-015324 平成26年10月6日～平成28年4月22日	8,614台	①②
		「YZF-R25A」	RG10J-006561～RG10J-015277 平成27年2月12日～平成28年4月1日	1,993台	①②
		「MT250」	RG10J-008962～RG10J-014161 平成27年6月22日～平成28年2月14日	2,226台	①②③
			RG10J-015297 平成28年4月1日	1台	①②
		(計2型式)	(計5車種)	(製作期間の全体の範囲) 平成26年10月6日～平成28年5月23日	(計15,072台)